

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2021年 第I・四半期(1～3月) VOL. 100

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 2021 年度の設備投資計画について	1 2
4. 設備投資を含めた自由回答について	1 5

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2021年6月実施）の調査で100回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業が23.5%、非製造業が18.6%、全体では21.8%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	162	44	27.2%
機械器具	186	49	26.3%
その他の製造業	302	60	19.9%
製造業計	650	153	23.5%
建設業	110	24	21.8%
卸売業	61	14	23.0%
小売業	44	5	11.4%
サービス業	135	22	16.3%
非製造業計	350	65	18.6%
合計	1,000	218	21.8%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	364	72	19.8%	238	40	16.8%	602	112	18.6%
20～49人	187	55	29.4%	77	22	28.6%	264	77	29.2%
50～99人	59	17	28.8%	18	2	11.1%	77	19	24.7%
100～299人	33	7	21.2%	12	1	8.3%	45	8	17.8%
300人以上	7	2	28.6%	5	0	0.0%	12	2	16.7%
合計	650	153	23.5%	350	65	18.6%	1,000	218	21.8%

【調査結果の総括】

～国内景気は後退局面から緩やかな回復傾向へ～

1～3月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で▲10と、前回調査から15ポイント改善し、D I水準は前回から引き続き、マイナス幅は縮小した（2020年12月＝▲25→2021年3月＝▲10）。業種別にみると、製造業のD Iは▲11となり、前回調査から15ポイント改善した（12月＝▲26→3月＝▲11）。非製造業のD Iは▲7となり、前回調査から13ポイント改善した（12月＝▲20→3月＝▲7）。

1月に2回目となる緊急事態宣言が発出され、外食産業、宿泊業等を中心に厳しい状況が続くなか、運送業や半導体・電子部品系の業態は好調に推移、自宅内消費関連もプラス要因に寄与するなど、業態による温度差が顕著となった。3月にはすべての地域で緊急事態宣言が解除され、人流も増加方向が見込まれ、低迷していた外食産業等にも期待感が寄せられている。半導体・電子部品関連は依然好調な状態を保っているが、燃料価格、原材料価格の高騰が広範囲にマイナスの影響を与えている。

今後は経済活動の正常化に向けた各業界の動きもあり、景況感は回復傾向を見せてはいるが、依然感染再拡大への危機は脱していないため、各種支援策やワクチン接種等の対応による経済活動回復にかかる期待は大きい。

図1. 業種別天気図(景況水準)		2020年4～6月期	2020年7～9月期	2020年10～12月期	今回 2021年1～3月期	天気図 前回比較
全産業		 ▲48	 ▲37	 ▲25	 ▲10	
製造業		 ▲58	 ▲47	 ▲26	 ▲11	
金属製品		 ▲77	 ▲53	 ▲22	 ▲5	
機械器具		 ▲40	 ▲53	 ▲34	 ▲4	
その他の製造業		 ▲56	 ▲41	 ▲25	 ▲21	
非製造業		 ▲18	 ▲18	 ▲20	 ▲7	
建設業		 ▲8	 ▲13	 ▲21	 ▲5	
卸売業		 ▲57	 ▲27	 ▲40	 ▲8	
小売業		 33	 ▲8	 40	 0	
サービス業		 ▲18	 ▲26	 ▲25	 ▲10	

※数値は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況判断D I値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ ☀、0～9は薄日 ☁、▲10～▲11は曇り ☁、▲20～▲21は小雨 🌧、▲21以下は雨 🌧 とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、 が好転、 が横ばい、 が悪化を示す。

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²（2021 年 3 月調査）における全国および近畿の業況判断D I（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国では前回調査より 7 ポイント、近畿では 11 ポイントの改善となり、景気の業況判断D I は前回に引き続き改善した。八尾市においては、全国、近畿と同様にすべてのD I 値が改善し、特に非製造業においては全国、近畿よりも改善の幅が大きくなった。（図 2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

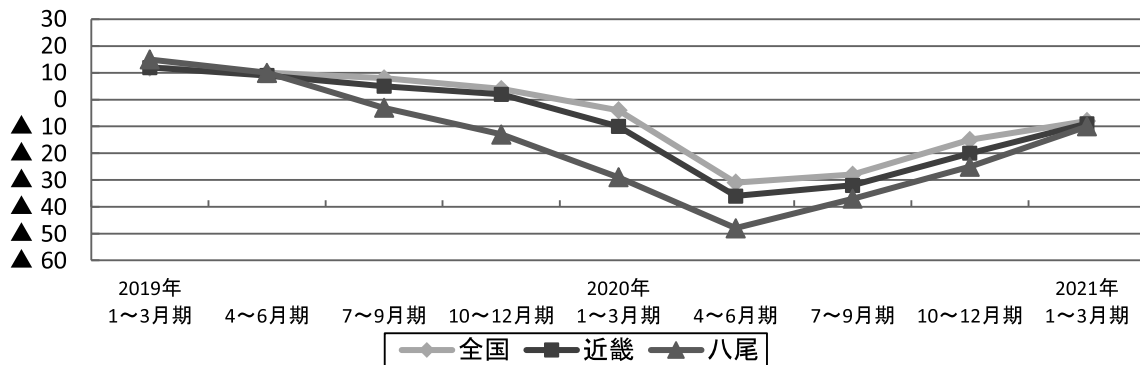


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

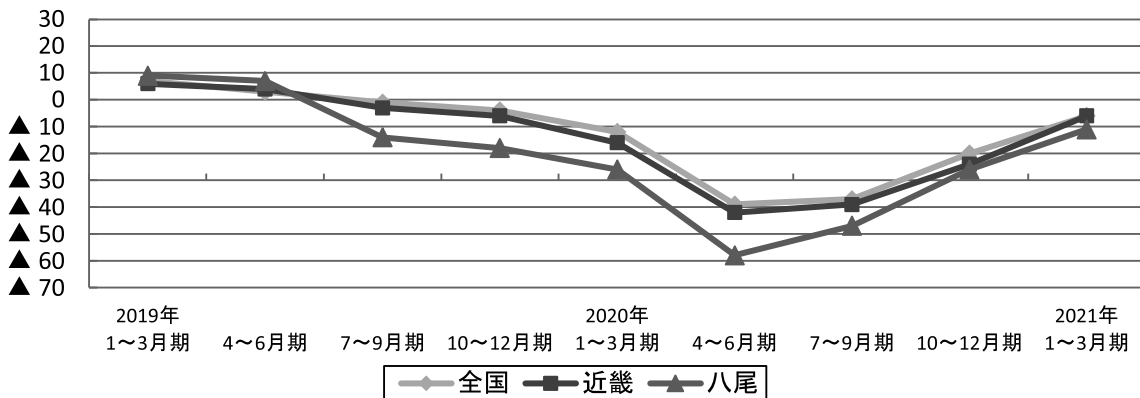
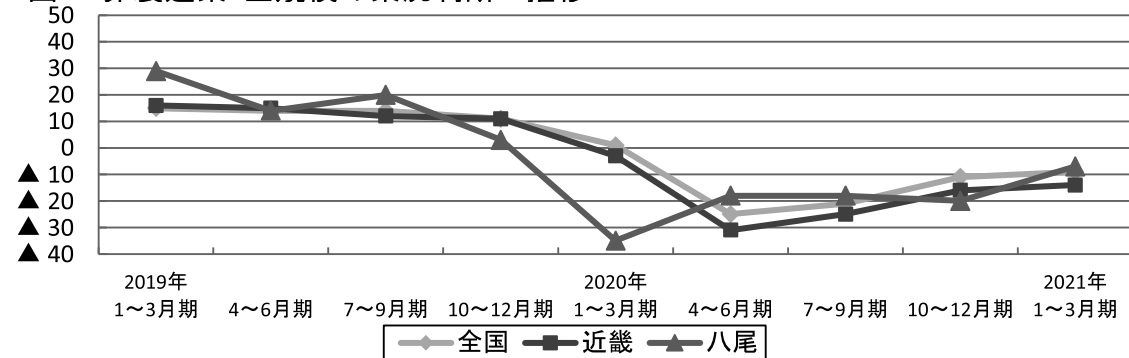


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のD I³で確認すると（図5～6）、製造業の「生産額」、「製品販売価格」、「設備投資額」全てにおいて前期から継続して良化し、「製品販売価格」においてはD I値がプラスに転じた推移となった。また、非製造業においては「売上額」、「販売先数・客数」で良化した。が、「設備投資額」は悪化となった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

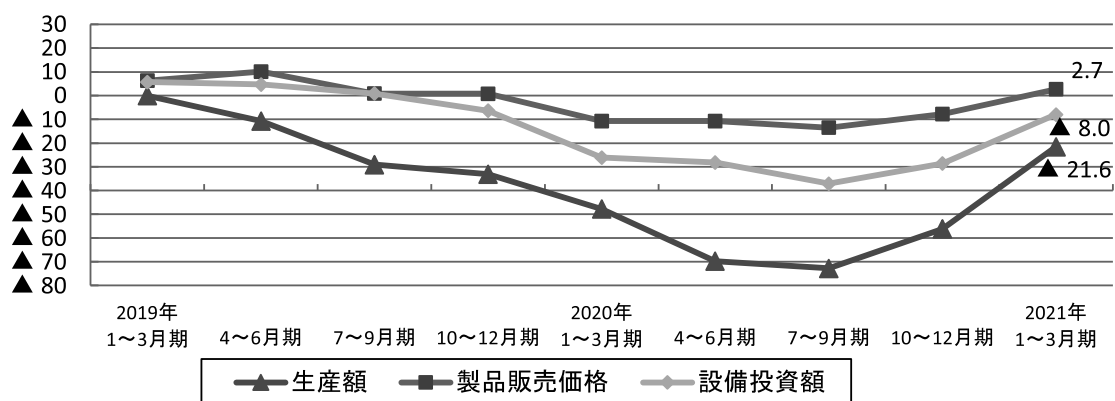
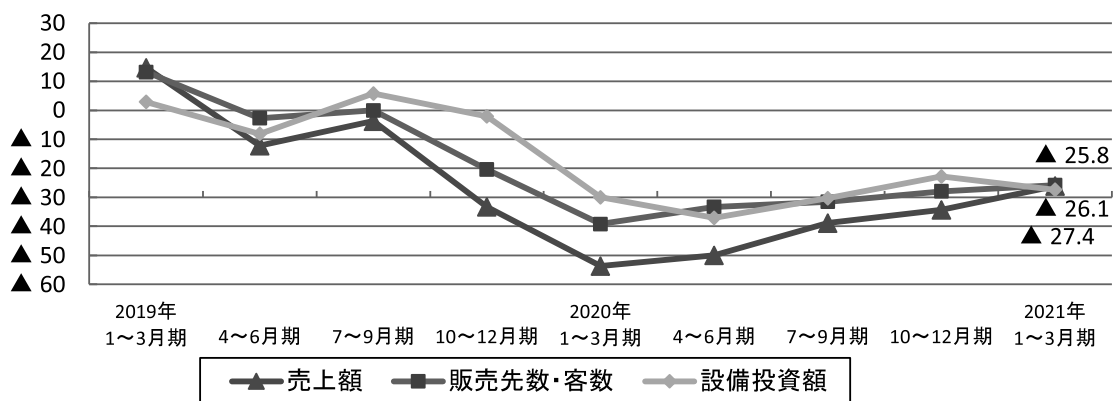


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

小雨



【生産額】

製造業の2021年1～3月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲11.2（▲はマイナスを表す、以下同様）と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲66.0→前回▲13.8→今回▲11.2）。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	44	38.6	27.3	34.1	4.5	▲ 14.0
	機械器具	49	28.6	36.7	34.7	▲ 6.1	▲ 28.2
	その他の製造業	60	15.0	43.3	41.7	▲ 26.7	▲ 4.8
	製造業計	153	26.1	36.6	37.3	▲ 11.2	▲ 13.8

前年同期と比べた生産額D Iでも▲21.6と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲72.8→前回▲56.2→今回▲21.6）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	44	40.9	15.9	43.2	▲ 2.3	▲ 51.2
	機械器具	49	26.5	26.5	46.9	▲ 20.4	▲ 66.6
	その他の製造業	60	16.7	30.0	53.3	▲ 36.6	▲ 53.2
	製造業計	153	26.8	24.8	48.4	▲ 21.6	▲ 56.2

【出荷額】

1～3月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲13.8と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲66.5→前回▲14.6→今回▲13.8）。業種別内訳をみると、その他の製造業でマイナス幅が拡大したが、金属製品、機械器具でD I値が±0となった。

表5. 出荷額

業種		当期出荷額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	44	36.4	27.3	36.4	0.0	▲ 14.0
	機械器具	49	28.6	42.9	28.6	0.0	▲ 25.7
	その他の製造業	59	15.3	33.9	50.8	▲ 35.5	▲ 8.0
	製造業計	152	25.7	34.9	39.5	▲ 13.8	▲ 14.6

【製品在庫】

1～3月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲8.6 と、マイナス（過剰超）幅は縮小した（前々回▲29.5→前回▲14.9→今回▲8.6）。業種別内訳をみると、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	43	9.3	76.7	14.0	▲ 4.7	▲ 4.8
機械器具	48	4.2	85.4	10.4	▲ 6.2	▲ 12.8
その他の製造業	59	6.8	72.9	20.3	▲ 13.5	▲ 23.3
製造業計	150	6.7	78.0	15.3	▲ 8.6	▲ 14.9

【原材料仕入価格】

1～3月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は53.0 と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回 14.5→前回 26.3→今回 53.0）。業種別内訳をみると、すべての業種でプラス幅が拡大した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	44	59.1	40.9	0.0	59.1	38.1
機械器具	48	56.3	41.7	2.1	54.2	28.2
その他の製造業	59	49.2	49.2	1.7	47.5	16.7
製造業計	151	54.3	44.4	1.3	53.0	26.3

【製品販売価格】

1～3月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は3.3 と、前回のマイナス（値下超）からプラス（値上超）に転じた（前々回▲6.1→前回▲3.6→今回 3.3）。業種別内訳をみると、機械器具で±0、金属製品、その他の製造業でマイナスからプラスに転じている。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	44	11.4	86.4	2.3	9.1	▲ 2.4
機械器具	49	10.2	79.6	10.2	0.0	▲ 5.1
その他の製造業	59	6.8	88.1	5.1	1.7	▲ 3.3
製造業計	152	9.2	84.9	5.9	3.3	▲ 3.6

前年同期と比較した製品販売価格D Iにおいても2.7と、マイナス（値下超）からプラス（値上超）に転じた（前々回▲13.5→前回▲7.8→今回2.7）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	44	11.4	84.1	4.5	6.9	0.0
機械器具	49	10.2	77.6	12.2	▲2.0	▲15.8
その他の製造業	59	8.5	86.4	5.1	3.4	▲8.3
製造業計	152	9.9	82.9	7.2	2.7	▲7.8

【 採 算 状 況 】

1～3月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲25.7と、マイナス（悪化超）幅はわずかに縮小した（前々回▲57.3→前回▲26.6→今回▲25.7）。業種別内訳をみると、金属製品、その他の製造業でマイナス幅が拡大、機械器具でマイナス幅がかなり縮小した。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	44	13.6	47.7	38.6	▲25.0	▲16.7
機械器具	49	16.3	49.0	34.7	▲18.4	▲51.3
その他の製造業	59	6.8	54.2	39.0	▲32.2	▲17.7
製造業計	152	11.8	50.7	37.5	▲25.7	▲26.6

【 資 金 繰 り 】

1～3月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲12.5と、マイナス（悪化超）幅はわずかに拡大した（前々回▲34.9→前回▲11.8→今回▲12.5）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でマイナス幅が縮小、その他の製造業でマイナス幅が拡大している。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	44	15.9	61.4	22.7	▲6.8	▲7.0
機械器具	49	8.2	71.4	20.4	▲12.2	▲18.0
その他の製造業	59	6.8	69.5	23.7	▲16.9	▲11.3
製造業計	152	9.9	67.8	22.4	▲12.5	▲11.8

【受注状況】

1～3月期の受注状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲16.5と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲66.5→前回▲20.2→今回▲16.5）。業種別内訳をみると、その他の製造業でマイナス幅が拡大、金属製品、機械器具でマイナス幅が縮小している。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	44	27.3	34.1	38.6	▲ 11.3	▲ 20.9
機械器具	49	22.4	51.0	26.5	▲ 4.1	▲ 28.3
その他の製造業	59	8.5	52.5	39.0	▲ 30.5	▲ 14.5
製造業計	152	18.4	46.7	34.9	▲ 16.5	▲ 20.2

【設備投資額】

1～3月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲8.0と、マイナス（減少超）幅はかなり縮小した（前々回▲37.1→前回▲28.6→今回▲8.0）。業種別内訳をみると、すべての業種でマイナス幅が縮小、特に金属製品においては±0までマイナス幅は縮小している。

表13.設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	43	23.3	53.5	23.3	0.0	▲ 30.3
機械器具	48	8.3	70.8	20.8	▲ 12.5	▲ 37.8
その他の製造業	59	10.2	69.5	20.3	▲ 10.1	▲ 21.7
製造業計	150	13.3	65.3	21.3	▲ 8.0	▲ 28.6

【向こう3カ月の景況】

1～3月期における向こう3カ月の景況判断D I（「好転」－「悪化」）は▲15.9と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲46.3→前回▲24.5→今回▲15.9）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス幅が拡大、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が縮小している。

表14.向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	43	20.9	39.5	39.5	▲ 18.6	▲ 16.7
機械器具	49	22.4	40.8	36.7	▲ 14.3	▲ 23.1
その他の製造業	59	15.3	54.2	30.5	▲ 15.2	▲ 30.6
製造業計	151	19.2	45.7	35.1	▲ 15.9	▲ 24.5

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

曇り

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

曇り

(今回)



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額のマイナス（減少超）幅が前回より拡大した。資材仕入単価と労務費以外はすべてマイナス領域での推移となり、工事引合件数、採算状況、受注状況の3指標ではマイナス（減少超・悪化超）幅が縮小したが、その他の3指標ではマイナス（減少超・値下超・悪化超）幅は拡大している。資材仕入価格がかなり上昇し、工事引合件数や受注状況は前回より改善はしたものの、受注単価にまでは影響及ばず資金繰りもマイナス幅拡大での推移となった。建設業の景気動向としては前回より改善はされているが、向こう3ヵ月の景況をみると楽観視はできない。

前年同期比D Iをみると、設備投資額でマイナス幅が拡大したもの、売上額、受注状況のマイナス幅は縮小している。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	24	8.3	50.0	41.7	▲ 33.4	▲ 30.8
	資材仕入価格	23	56.5	43.5	0.0	56.5	16.0
	労務費	23	21.7	69.6	8.7	13.0	16.0
	工事引合件数	23	21.7	47.8	30.4	▲ 8.7	▲ 40.0
	受注単価	23	4.3	52.2	43.5	▲ 39.2	▲ 20.0
	採算状況	23	0	69.6	30.4	▲ 30.4	▲ 40.0
	資金繰り	23	4.3	78.3	17.4	▲ 13.1	▲ 8.0
	受注状況	23	17.4	43.5	39.1	▲ 21.7	▲ 44.0
前年 同期比	向こう3ヵ月の景況	23	13	21.7	65.2	▲ 52.2	▲ 12.0
	売上額	24	25	29.2	45.8	▲ 20.8	▲ 46.2
	受注状況	23	8.7	43.5	47.8	▲ 39.1	▲ 52.0
	設備投資額	22	0	59.1	40.9	▲ 40.9	▲ 37.5

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

曇り

(今回)



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額は前回の±0からマイナス（減少超）となった。販売先数・客数、客単価はプラス（増加超）からマイナス（減少超）へ転じ、商品仕入価格はプラス（値上超）幅が拡大した。しかし、資金繰りが前回のマイナス（悪化超）からプラス（好転超）へ転じ、粗利益率もマイナス（悪化超）幅が縮小するなどの影響を受け、卸売業の景気動向は前回から好転した。とはいえ、向こう3ヵ月の景況はマイナス（悪化超）幅が拡大しており、引き続き慎重な対応が求められる。

前年同期とのD Iの比較でみると、売上額はマイナス（減少超）からプラス（増加超）へ、販売先数・客数はプラス（増加超）からマイナス（減少超）へ転じた。設備投資額はマイナス（減少超）幅が拡大した。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	14	28.6	35.7	35.7	▲ 7.1	0.0
	販売先数・客数	14	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	6.2
	客単価	14	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	6.2
	商品仕入価格	14	35.7	64.3	0.0	35.7	25.0
	商品在庫	14	0.0	78.6	21.4	▲ 21.4	▲ 25.0
	商品販売価格	14	21.4	57.1	21.4	0.0	0.0
	採算状況	14	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	▲ 12.5
	資金繰り	14	21.4	64.3	14.3	7.1	▲ 12.5
	粗利益率	14	21.4	50.0	28.6	▲ 7.2	▲ 18.7
	向こう3ヵ月の景況	14	21.4	42.9	35.7	▲ 14.3	▲ 12.5
前年 同期比	売上額	14	42.9	21.4	35.7	7.2	▲ 25.0
	販売先数・客数	14	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	12.5
	設備投資額	14	7.1	57.1	35.7	▲ 28.6	▲ 25.0

小売業

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額は前回よりマイナス（減少超）幅が拡大した。販売先数・客数はマイナス（減少超）幅が拡大し、商品仕入価格はプラス（値上超）幅が拡大、資金繰りは前回のプラス（好転超）からマイナス（悪化超）へ転じ、小売業の景気動向は前回より悪化した。

前年同期との比較では、売上額、販売先数・客数、設備投資額のすべてでマイナス（減少超）幅は拡大した。

表17.小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	5	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 40.0
	販売先数・客数	5	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 20.0
	客単価	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
	商品仕入価格	5	60.0	40.0	0.0	60.0	20.0
	商品在庫	5	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
	商品販売価格	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	20.0
	採算状況	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0
	資金繰り	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	20.0
	粗利益率	5	40.0	20.0	40.0	0.0	40.0
	向こう3ヵ月の景況	5	40.0	20.0	40.0	0.0	20.0
前年同期比	売上額	5	20.0	0.0	80.0	▲ 60.0	▲ 20.0
	販売先数・客数	4	25.0	0.0	75.0	▲ 50.0	▲ 20.0
	設備投資額	4	25.0	25.0	50.0	▲ 25.0	▲ 20.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

曇り



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額は前回からマイナス（減少超）幅が拡大した。客数を除いたすべての指標がマイナス域での推移となったが、客数がマイナス（減少超）から±0に、客単価のマイナス（減少）幅は縮小するなどの影響で、サービス業の景気動向は前回から改善した。

前年同期との対比では、客数のマイナス（減少超）幅は縮小したが、売上額、設備投資額のマイナス（減少超）幅は拡大している。

表18.サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	22	27.3	22.7	50.0	▲ 22.7	▲ 8.7
	客数	21	28.6	42.9	28.6	0.0	▲ 13.6
	客単価	21	9.5	66.7	23.8	▲ 14.3	▲ 27.3
	採算状況	22	9.1	54.5	36.4	▲ 27.3	▲ 22.7
	資金繰り	22	4.5	59.1	36.4	▲ 31.9	▲ 4.6
	粗利益率	22	4.5	50.0	45.5	▲ 41.0	▲ 27.3
	向こう3ヵ月の景況	22	18.2	50.0	31.8	▲ 13.6	▲ 41.0
前年同期比	売上額	22	22.7	9.1	68.2	▲ 45.5	▲ 30.5
	客数	21	28.6	28.6	42.9	▲ 14.3	▲ 31.9
	設備投資額	22	18.2	50.0	31.8	▲ 13.6	▲ 4.7

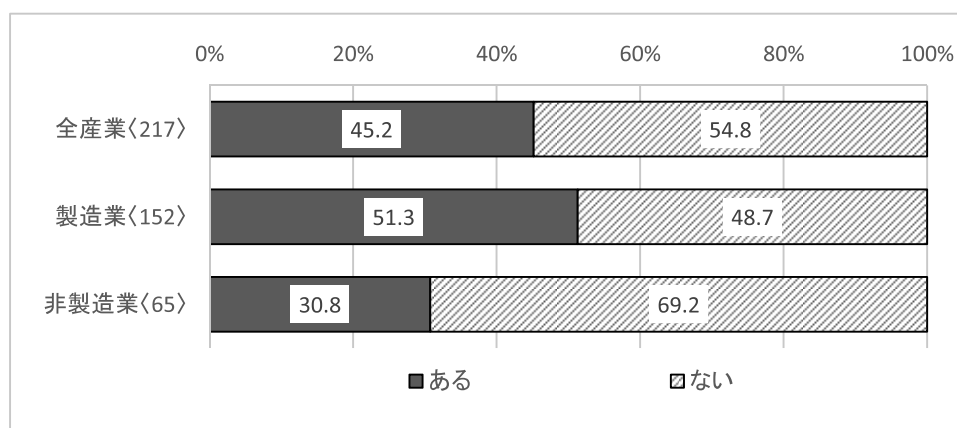
3. 2021 年度の設備投資計画について

（１）2021 年度に設備投資を行う予定（計画）について

2021 年度の設備投資計画について尋ねたところ、全体（回答事業所数は 217）では「ある」の割合が 45.2%、「ない」の割合が 54.8%となり、設備投資計画を有する事業所は 4 割強となった。

業種別でみると、製造業では「ある」の割合が半数を超え 51.3%となったのに対し、非製造業では「ある」の割合が 30.8%となり、業種による差異が明確になっている（図 7）。

図 7. 2021 年度の設備投資計画



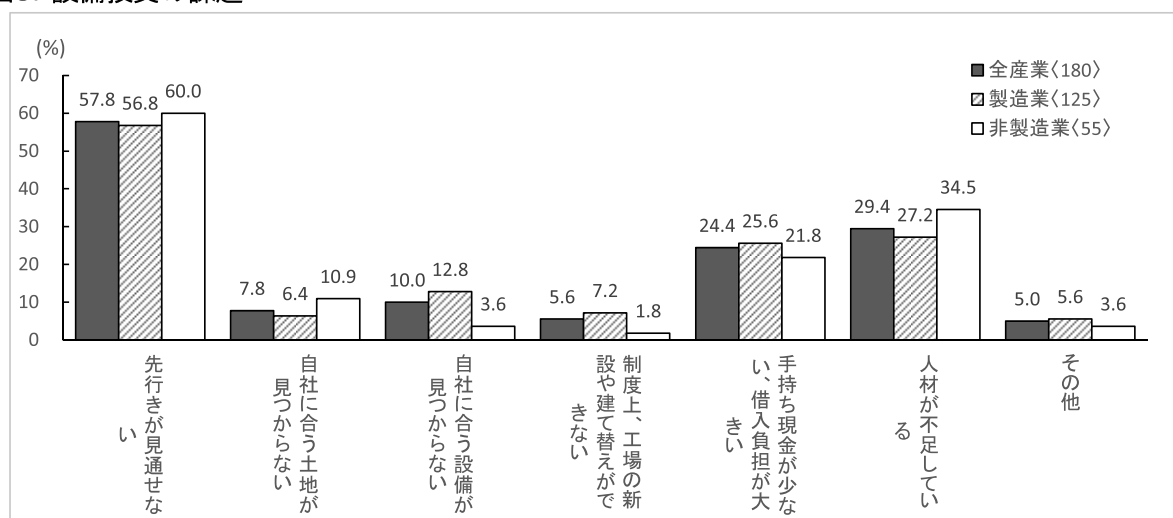
（注）〈 〉内は回答事業所数。

（２）設備投資の課題について

設備投資における課題について複数回答可で尋ねたところ、全体（回答事業所数は180）では、「先行きが見通せない」（57.8％）の割合が最も高く、次いで「人材が不足している」（29.4％）、「手持ち現金が少ない、借入負担が大きい」（24.4％）と続いている。

業種別でみると、上位２項目の「先行きが見通せない」、「人材が不足している」で製造業より非製造業の割合が高く、「手持ち現金が少ない、借入負担が大きい」では製造業の方が高くなっている（図8）。

図8. 設備投資の課題



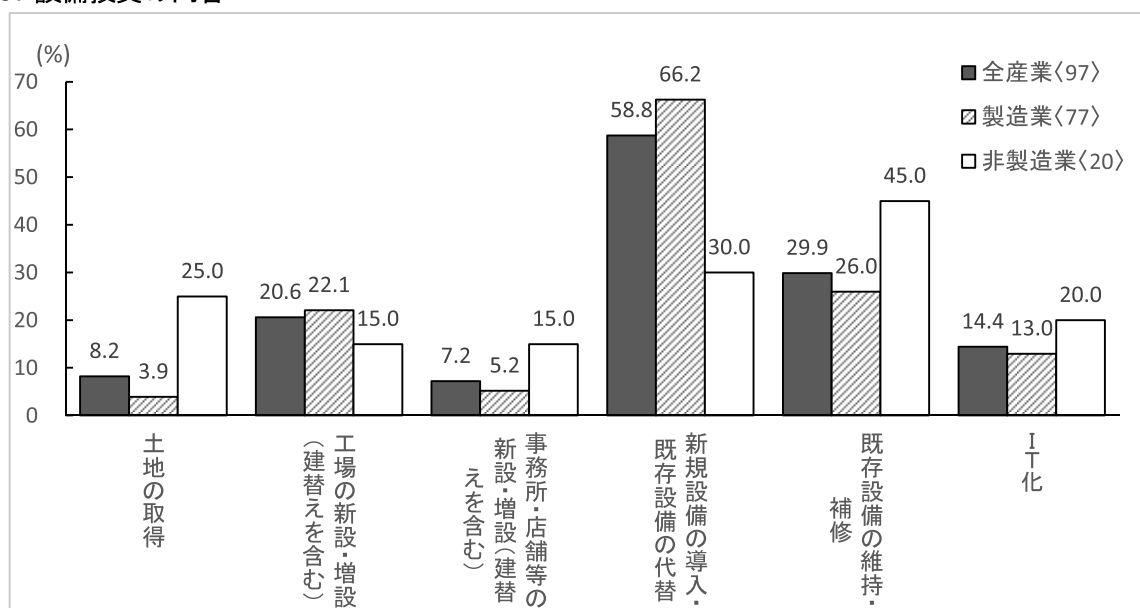
（注）〈 〉 内は回答事業所数。

（３）設備投資の内容について

（１）2021 年度に設備投資を行う予定（計画）について「ある」と回答した事業所に、その設備投資の内容について尋ねたところ、全体（回答事業所数は 97）では、「新規設備の導入・既存設備の代替」（58.8％）の割合が最も高く、次いで「既存設備の維持・補修」（29.9％）、「工場の新設・増設（建替えを含む）」（20.6％）と続いている。

業種別でみると、製造業は全体と順位がほぼ変わらなかったが、非製造業では「既存設備の維持・補修」（45.0％）の割合が最も高くなり、次いで「新規設備の導入・既存設備の代替」（30.0％）、「土地の取得」（25.0％）と続いており、その割合も製造業の割合とは差異がみられる（図 9）。

図9. 設備投資の内容



（注）〈 〉内は回答事業所数。

4. 設備投資を含めた自由回答について

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	新製品製造にかかわる準備が必要。
製造業	A	ものづくり補助金を既存の機械の更新にも適用してもらいたい。
製造業	B	新規事業参入の為、既存設備でなく、全く新しい設備（3Dプリンター）必要。
製造業	C	もの作り補助金の申請が通れば設備投資をする予定。
卸・小売業	A	冷蔵庫の機械が古いので入替したいが今のままで使用する。
サービス業	B	助成金の申請を検討中。

（注1）規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

（注2）コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2021年5月時点でのものである。



〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>



〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>